

28. 福岡県てんかん地域診療連携体制整備事業 2023 年度活動報告

福岡県てんかん治療医療連携協議会委員長
九州大学病院 脳神経内科
重藤 寛史

1. 概要

福岡県におけるてんかん支援拠点病院として九州大学病院が選定されたのが 2023 年 1 月 23 日であるので、2023 年度がてんかん支援拠点病院としての実質的な 1 年目となる。拠点病院のてんかん診療体制として、これまで同様に月 1 回のてんかんカンファレンスを行ってきたが、他施設も参加できるような WEB システムを構築した。初学者向け「脳波判読セミナー」を 8 回、中級者向け「福岡臨床と脳波懇話会」を 6 回、WEB を用いて行った。福岡県てんかん治療医療連携協議会の委員として、県中央～東部、西部の医師を加え、てんかん協会の委員も増員した。これらにより、県内のてんかん診療の均てん化を推進した。ホームページおよびリーフレットの作成、てんかん総合講座、福岡県てんかん支援拠点病院研修会、市民公開講座、を開催し、てんかんの啓発に努めた。事務局の設置、相談受付窓口電話の設置を行い、「てんかん診療支援コーディネーター」の資格を 3 名が取得し、てんかん医療支援を行える体制を整えた。

2. 福岡県のてんかん診療体制

1) 九州大学病院のてんかん支援拠点病院としてのてんかん診療体制

前年度に引き続き、日本てんかん学会認定の包括的てんかん専門医療施設として認定された。従来から月 1 回開催している「てんかんカンファレンス」に、WEB システムを構築し、てんかんに対する共同研究施設として福岡山王病院てんかん・すいみんセンターが加わることができるようにした。また、この WEB システムを用いて、他県の医師とも合同でカンファレンスが行えるようになり、てんかんの診断や難治性てんかんに対する抗てんかん発作薬治療、てんかん外科治療において最適な治療の選択ができるようになった。また、てんかん医療に対して教育的な場も提供できるようになった。「てんかん診療支援コーディネーター」の資格を 3 名が取得し、てんかん支援体制をより強固なものにした。

2) 福岡県てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会の委員として、前年度は福岡市、福岡県南部の筑後地区、福岡県北部の北九州市の医師から選出していたが、福岡県全域にてんかん診療連携を広げるために、福岡県西部をカバーする福岡市西区の福岡歯科大学医科歯科総合病院、福岡県中央～東部をカバーする筑豊地区の飯塚病院に在籍するてんかん専門医を新たに委員に加えた。てんかん協会からの要望があり、てんかん協会の委員も 2 人に増員した。ホームページを作成した。また、リーフレットを作成し、県内主要施設に配布した。九州大学病院ブレインセンター内に事務局を配置し、専任事務員を雇用した。相談受付窓口電話を設置し、専任事務員および医療連携室職員が平日の 9:30～15:30 であればいつでも対応できるようにした。福岡県てんかん治療医療協議会委員会を 7 月と 11 月の 2 回開催し、活動状況の報告、今後の活動に関する意見交換を行った。

3. 活動状況

1) てんかん治療医療連携協議会委員の増員

てんかん協会福岡支部会長 熊丸恭子氏、麻生飯塚病院脳神経内科部長 高瀬敬一郎氏、福岡歯科大学医科歯科総合病院小児科・小児神経科科長 鳥巢浩幸氏の 3 名を増員し、以下の委員となった。

九州大学病院	重藤寛史 保健学部門教授 磯部紀子 脳神経内科科長 下川能史 脳神経外科助教 向野隆彦 脳神経内科助教 (神田奈々 てんかん支援拠点病院事務)
久留米大学病院	本岡大道 精神神経科准教授
北九州総合病院	石井雅宏 小児科部長
福岡歯科大学医科歯科総合病院	鳥巢浩幸 小児科・小児神経科科長
飯塚病院	高瀬敬一郎 脳神経内科部長
福岡県精神保健福祉センター	楯林英晴 センター長
福岡市精神保健福祉センター	川口貴子 センター長

北九州市立精神保健福祉センター	藤田浩介 センター長
福岡県保健医療介護部健康増進課こころの健康づくり推進室	中川洸平 山田修平 重松貴博
てんかん協会	岡本 朗 日本てんかん協会常任理事
てんかん協会	熊丸恭子 日本てんかん協会福岡県支部会長

2) ホームページ作成

てんかん協会から、患者や患者の家族にとってわかりやすいホームページを作成して欲しいという要望があり、シンプルでわかりやすい構成のホームページを作成した。ホームページ内に相談窓口の連絡先を掲載し、アクセスしやすいようにした。



<http://epilepsy.kyushu-u.ac.jp>



3) リーフレット作成

てんかん疾患についてわかりやすく解説し、どの年齢でも発症しうる身近な疾患であることを啓発できるような内容にした。

利用できる制度

■自立支援医療制度
てんかんの診断で通院している方は誰でも利用できます。公的な医療保険制度では医療費の3割が自己負担となりますが、この制度を利用すれば自己負担額が1割ですむ場合があります。自己負担額の上限は、収入によって異なります。また、この制度はすべての医療機関で利用できるわけではありません。

■精神障害者保険福祉手帳制度
てんかん患者さんに対して、税の優遇や公共交通機関の割引など、生活に関わる費用の一部を補助してくれる制度です。てんかん発作のタイプに關わる一定の条件を満たしている患者さんのみが対象となります。申請は市区町村が窓口となり、自立支援医療制度と同時に申請することができます。

■障害年金
てんかん発作のため就労や生活が困難な患者さんに支払われる年金のことです。てんかんに伴う障害の程度だけではなく、公的年金への加入や保険料の納付状況など、申請にはさまざまな条件が必要になります。

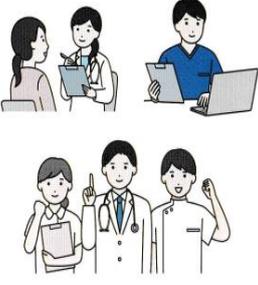
■高額療養費制度
高度な入院検査や外科手術を行い、1ヶ月にかかる医療費が高額となった場合に、一定の額を超えた医療費が戻ってくる制度です。

■障害手帳
児童相談所または知的障害者更生相談所から知的機能が一定の状態であると認定された方を対象に、税の優遇や公共交通機関の割引、手当ての支給を受けられる制度です。

それぞれの制度の利用対象となるかは、主治医や病院のソーシャルワーカーにご相談ください。
また、申請方法や詳細については、お住まいの市区町村の窓口へお問い合わせください。
当院でも「てんかん医療支援コーディネーター」が相談のっておりますので、ご相談ください。

てんかん支援拠点病院の主な役割

- てんかん治療医療連携協議会の設置・運営
- てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援・治療
- 県内の医療機関等への助言・指導
- 関係機関との連携・調整
- 医療従事者等に対する研修実施
- 患者・家族・地域住民等への普及啓発
- てんかん診療支援コーディネーター（医療・福祉に関する国家資格者）の配置
- 全国拠点機関との連携



福岡県てんかん支援拠点病院

〒812-8582
福岡市東区馬出3-1-1 九州大学病院
事務局(相談窓口): 092-642-4379



<https://epilepsy.kyushu-u.ac.jp/>

「てんかん」は 身近な疾患です

「てんかん」について知りましょう



《てんかんとは》

脳の神経細胞が異常発火を起こすことで、反復性の発作(てんかん発作)を引き起こす神経障害の一種です。てんかん発作は、全身を震わせる全身けいれん以外にも、意識障害、自動運動、感覚異常、精神症状など、さまざまな症状を引き起こすことがあります。乳幼児期から、思春期、挙児予定の女性、働き盛りの人、そして高齢者まで、いずれの年齢でも発症し、その割合は約100人に1人です。患者さんの数は全国で約100万人、福岡県で約4万人と推計されています。

てんかん発作のさまざまな症状（一例）

一点を凝視して 全身性のけいれん
口をもぐもぐさせる



意識の無くなる発作

- 突然、動作が止まり、眼球が上転する。呼びかけに反応しない。
- 急に反応がなくなり、一点を凝視して口をもぐもぐさせる。
- 突然、その場にそぐわない無目的な行動を起こす。

意識の無くならない発作

- 手足が意図せず突然動く。
- 手足が一瞬だけピクッと動きものを落とす。
- 突然光が見えたり物がゆがんで見えたりする。
- 体の一部にしびれが出て広がる。
- 急に音やメロディーが聞こえる。
- 急に言葉が理解できないようになる。
- お腹に込み上げるような不快な感覚が出てくる。

全身性のけいれん

突然意識を失い両手足を突っ張る(強直発作)

ガクガクと大きく動く(間代発作)

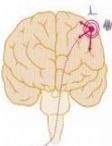
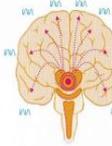
動作が止まり、いびきをかいて眠り、しばらく反応がない

30分から1時間経つと普段通りになる

てんかんの診断

診断のためには詳細な問診、脳波、脳MRI検査が必要です。てんかんに似た疾患、例えば、不整脈や循環器系が原因の意識消失、心因性のけいれん、認知症などの鑑別が必要です。また、原因も、遺伝的素因、脳の一部の構造異常、脳の炎症や外傷の後遺症、脳卒中、加齢変化など多岐にわたります。発作症状に関する情報や脳波検査などの結果をもとに、脳の中でどのような揺がり方をしているかを医師が判断します。小児発症でてんかんの中には自然に発作が消失する良好な経過をとる症候群がある一方、発作自体が脳症を進行させる症候群もあります。高齢発症のてんかんは認知症との鑑別が必要な場合があります。

発作の部類
焦点起始発作と全般起始発作

《焦点起始発作》 《全般起始発作》

脳波・脳MRI検査

外来で30分ほどの脳波検査を行います。1度の脳波検査で異常が出ない場合もあるため、数回の記録や、眠った状態での記録が必要なことがあります。脳腫瘍はじめ脳の形態異常がないかを調べるために、特殊な条件を用いて脳MRI検査を行います。



長時間ビデオ脳波モニタリング

外来の脳波検査だけでは診断がつかない場合や、てんかん手術前に評価を行う場合は、数日入院して、脳波と症状の記録を続ける長時間ビデオ脳波モニタリング検査を行います。



(九州大学病院神経内科の長時間ビデオ脳波モニタリング室)

てんかんの治療

約7割は抗てんかん発作薬で発作が治まります。1割で十分な効果がない時には複数の薬剤を併用することもあります。

抗てんかん発作薬の効きにくい場合は脳の一部を切除する手術や、ペースメーカーの様な電気刺激装置を頭に埋めて首のどこにある神経を刺激する迷走神経刺激治療が有効な場合があります。

うつや不安症などの精神症状、神経発達障害、認知症などが合併する場合は、その治療も必要です。

4) 事務局設置

九州大学病院ブレインセンター内に事務局を配置。専任事務員を雇用。相談受付窓口電話を設置し、専任事務員および医療連携室職員が平日の9:30~15:30であればいつでも対応できるようにした。



- 5) 第1回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2023年7月26日
第2回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2023年11月1日

- 6) 第1回 てんかん医療運営委員会 2023年7月12日
第2回 てんかん医療運営委員会 2023年1月22日
第3回 てんかん医療運営委員会 2023年3月22日 (活動予定)

7) 福岡臨床と脳波懇話会 (月例会) のWEB開催

- 第555回 2023年5月17日
第556回 2023年6月21日
第557回 2023年9月20日
第558回 2023年11月15日
第559回 特別講演会 2024年2月9日
第560回 2024年2月21日

8) 脳波判読WEBセミナー

- 2023年6月27日 脳波判読の基礎
2023年7月18日 モンタージュ、Phase reversal
2023年9月26日 アーチファクト
2023年10月31日 正常亜型、睡眠
2023年11月28日 徐波・意識障害
2023年12月26日 焦点てんかん
2024年1月23日 全般てんかん
2024年2月27日 Critical care EEG

9) てんかんカンファレンス

毎月1回 (4月21日、5月19日、6月30日、7月21日、8月30日、9が庄29日、10月6日、11月8日、12月15日、1月19日、2月16日、3月22日)

10) 第34回 てんかん総合講座 2023年8月25日

福岡県てんかん支援拠点病院の設置記念として公益社団法人日本てんかん協会と共催で開催した。「てんかん地域診療連携体制整備事業」および「てんかん薬物療法について」の演題で九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野/九州大学病院 脳神経内科の重藤寛史氏、「手術で治るてんかんについて」の演題で九州大学病院 脳神経外科 下川能史氏の講演が行なわれた。

11) 第2回 福岡県てんかん支援拠点病院研修会 2023年11月22日

「てんかん医療において知っておくべき医療・福祉制度



について」の研修会をWEBセミナーにて開催した。「てんかんで利用できる医療に関して」の演題で九州大学病院 医療連携センター てんかん診療支援コーディネーターの室岡明美氏、「基幹相談支援センターの役割と障害者の就労支援に関する制度について」の演題で福岡市東区第2障がい者基幹相談支援センター 主任コーディネーター 相談支援専門員の栗山信介氏、「就労に関する制度について」の演題で社会福祉法人さつき会 障害者就業・生活支援センターはまゆう 就業支援員の美和朝子氏の講演が行われた。



全画面表示を終了するには **Esc** キーを押してください

医療・福祉関係者のためのWEBセミナー

第2回 福岡県てんかん支援拠点病院研修会

開催理由

てんかん患者さんが利用できる医療・福祉制度があるにもかかわらず、患者さんだけでなく、医療の側も認識していないことがあります。そこで今回は、てんかん医療において知っておくべき医療・福祉制度についての研修会を開催します。

開催日時

2023年11月22日(水) 19:00～20:15 (WEB入室 18:30～)

開催方法

オンライン (Zoom) 福岡県のでんかん診療にあたる医師 歯科医師ならびに医療・福祉関係者

参加費 無料

プログラム

テーマ

～てんかん患者が利用できる社会保障制度について～

● 挨拶	重藤 寛史	九州大学大学院医学研究院 保健学部門 救急放射線科学分野・九州大学病院 脳神経内科
● てんかんで利用できる医療制度	室岡 明美	九州大学病院 医療連携センター てんかん診療支援コーディネーター
● 基幹相談支援センターの役割と 障害者の就労支援に関する制度について	栗山 信介	福岡市東区第2障がい者基幹相談支援センター 主任コーディネーター・相談支援専門員
● 就労に関する制度について	美和 朝子	社会福祉法人さつき会 障害者就業・生活支援センターはまゆう 就業支援員

オンデマンド配信

2023年11月27日(月)～12月18日(月) すべてのお申込み者が閲覧可能です

福岡県医師会会員の方へ

第2回福岡県てんかん支援拠点病院研修会では 日本医師会生涯教育講座合計「1単位」取得できます

申込み方法

右の2次元コードまたは下のURLにアクセスし 必要事項をご入力の上お申し込みください 申し込み完了メールが届いたら受付完了となります <https://forms.gle/mFkvio3jdPqYs4G8A>



参加申込締切

2023年11月21日(火)まで

開催場所

福岡県てんかん支援拠点病院 九州大学病院 福岡県てんかん治療医療連携協議会

協力

九州大学病院アジア遠隔医療開発センター

お問い合わせ先

九州大学病院内 福岡県てんかん支援拠点病院事務局

E-mail: epilepoy@jimu.kyushu-u.ac.jp

12)全国てんかんセンター協議会 2024年3月2~3日(徳島)

以下の発表を行い、福岡県てんかん支援拠点病院におけるよりよいてんかん診療の取り組みとして全国でのてんかん診療関係者への情報発信を行った。

○ 頭蓋内電極留置術後の長時間ビデオ脳波モニタリング患者における創部感染予防に対する取り組み
(九州大学病院 脳神経外科：下川能史、吉本幸司、看護部脳神経外科病棟：長崎万由子、萬蔵ことみ、鳥羽好和、検査部：酒田あゆみ、渡邊恵利子、脳神経内科：重藤寛史)

○ 脳波検査を通して得られる情報を患者支援に繋げよう (九州大学病院 検査部：酒田あゆみ、渡邊恵利子、脳神経内科：向野隆彦、重藤寛史、脳神経外科：下川能史、小児科：酒井康成)

てんかん外科治療のチーム医療



当院での頭蓋内電極留置・脳波解析・焦点診断・焦点切除の流れ

外科治療を検討する症例の提示

- 九州大学病院てんかんカンファレンス
- > 多職種合同による発作型・てんかん症候群の決定、治療方針の検討会議(月1回開催)
 - > 脳神経内科・小児科より薬剤抵抗性てんかんに対する外科治療の提案
 - > 主科・検査技師より発作症候、ビデオ脳波モニタリング、画像所見の提示
 - > 言語聴覚士より高次脳機能評価について提示
 - > 精神科より精神的リスクのある患者に対するケアの提示



電極留置範囲の決定

- > 脳神経外科より術前計画を提示
手術計画に関する資料を作成、共有
- > 多職種てんかんカンファレンスで電極留置範囲の最終決定
- > 患者に手術・治療計画を提示
- > 看護師と手術・治療計画を共有



手術:頭蓋内電極留置

- > 脳神経外科より手術(頭蓋内電極留置)
脳神経内科・小児科・検査技師の手術参加



脳波解析

周術期病棟管理

- > 検査技師による電極管理
- > 看護師による周術期看護(発作時対応、感染対策)
- > 脳神経内科・検査技師による脳波解析
- > 脳神経内科・脳神経外科・検査技師による解析結果の解釈



切除範囲の決定

- > 脳神経外科より焦点切除手術の手術計画を提示
手術計画に関する資料を作成、共有
- > 多職種ミーティングで手術計画・切除範囲の最終決定
- > 患者に手術・治療計画を提示



てんかん焦点切除術

- > 脳神経外科より手術(てんかん焦点切除)
脳神経内科・小児科の手術参加
- > 検査技師による術中脳波・MEPモニタリング測定
- > 脳神経内科・脳神経外科による術中脳波判定



手術後

- > 脳神経外科・看護師による周術期管理
- > 検査技師による脳波測定(手術1週間後)
- > 脳神経外科によるてんかんカンファレンスでの手術報告
- > 脳神経外科による手術後外来診療
- > 脳神経外科・脳神経内科・検査技師・言語聴覚士による手術1年後ビデオ脳波モニタリング・高次脳機能評価、以降脳神経内科・小児科での外来診療



13) 市民公開講座 2024年3月26日(活動予定)

てんかん啓発の日であるパープルデイに、「てんかんと認知障害」をテーマに九州大学病院 脳神経内科 向野隆彦 氏、九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野/九州大学病院 脳神経内科 重藤寛史 氏の講演を予定している。

3月26日
パープルデイ
全画面表示を終了するには **Esc** キーを押してください

福岡県てんかん支援拠点病院

市民公開講座

『てんかん』啓発の日

ものわすれが 気になりませんか？



テーマ **てんかんと認知障害**

九州大学大学院医学研究院
保健学部門 検査技術科学分野 分野長
重藤 寛史 先生

九州大学病院
脳神経内科 臨床助教
向野 隆彦 先生

入場無料

日時 **2024年3月26日(木) 18:30~20:00** (開場18:00~)

会場 **福岡RESOLAホール**
(レゾラNTT夢天神ホール)
福岡市中央区天神2-5-55 レゾラ天神5F

対象 **どなたでも
ご参加いただけます**

定員 **250名**

申込方法
右のQRコードまたは下のURLにアクセスしお申し込みください

申込用QRコード

URL <https://forms.gle/eT4iie7rpNJJnGxg9>

申し込み完了メールが届いたら受付完了となります
〈複数名で参加される場合は必ず人数分お申し込みください〉
〈上記申し込みが困難な方は 当日受け付け致します〉

お問い合わせ
福岡県てんかん支援拠点病院
(九州大学病院)

T E L : 092-642-4379 (月・水・金)
E-mail : epilepsy@jimu.kyushu-u.ac.jp (申込専用)
U R L : <https://epilepsy.kyushu-u.ac.jp>

ホームページ

